

木曜 5 限「農作物を知る」レポート

私住みます。

筆者は溝口教授の配布資料を読みかつ講義を聞いて、筆者自身が将来的に飯舘村をはじめとする現在避難指示区域に指定されている市町村に住み農業をしたいと考えた。

現状

2015 年 5 月現在では福島県の 10 の市町村にまたがって避難指示地域が指定されている。この地域はさらに帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域に分けられる。帰還困難区域は立ち入りが厳重に制限され、住民の一時立ち入りには防護服着用や線量計所持の必要がある。居住制限区域は防護服、線量計なしで立ち入ることができるが宿泊は認められていない。避難指示解除準備区域ではさらに製造業や金融機関、ガソリンスタンド、農業などの再開も認められている。(日本大百科全書(ニッポニカ)(コトバンク内)より) いずれの区域も具体的な解除時期はまだ示されていない。2015 年 4 月現在で県内・県外合わせて約 11 万人が避難している。(福島県)

意義

筆者は現在 19 歳の女性である。この筆者が将来的に福島県の被災地域に住み農業をすることの意義は大きい。

第一に地域に若者が増えることになる。福島県沿岸地域の市町村では 2010 年時点で 65 歳以上の割合が全国平均よりも 2~4%高かった(総務省統計局)。さらに 2013 年に避難指示区域の住民を対象に行われたアンケートでは年代が低くなるにつれ期間以降が低くなる傾向が見られる(復興庁)。つまりこれらの地域では住民帰還後の人口の超高齢化が予測されるのだ。これでは復興を主体的に担っていく者が不足する。また復興したところで数十年後には住民がいなくなるという事態も起こりかねない。ひとりでも多くの若者が住む必要がある。

第二に若手農家が増えることになる。農家は日本中どこでも高齢化に悩んでいる。今述べたように超高齢化すると考えられる避難地域ではなおさら問題は深刻である。これは筆者が農家として住むことで少し軽減される。

第三に科学的調査をしながら農業ができる。筆者は東京大学の学生であり農学部に進むつもりである。放射性物質で汚染された農地で農業をするにはたとえ除染後であっても慎重な観察と判断が必要になると思われる。筆者が大学で科学的調査や思考法を学べ

ばこの地域での農業の役にたつだろう。このような特殊な条件での農業はそれ自体が価値のある研究になりうる。状況によっては研究機関との協力や筆者自身が研究を行うことにより他の汚染地域でも役に立つ知見を得ることができる可能性も多いにある。

第四に地域外の人間が被災地域に住むことの意義がある。避難地域の住民は自分たちの故郷に愛着を持っているとはいえ放射能汚染への不安などから地域への誇りが失われてしまった部分もあるだろう。ここに外から住みたいという人間が現れることにより、それでも住みたいほどの魅力があるのだという自信を住民が持つことができる。さらに外からの新鮮な視線を復興計画に役立てる、地域外への情報発信を担うといったことも期待できる。

課題

筆者が住むにあたり課題も多い。そのひとつはいつ住めるようになるかまだわからないことである。筆者の人生や家族の計画もある。10年20年単位で住めるようにならないようであれば実現は難しいだろう。

もうひとつはやはり放射性物質の問題である。政府が帰還可能だと判断したからといって本当に健康被害が出ないとは限らない。特に筆者はそこで子育てをするつもりである。正直に言って不安は大きい。家族の承諾が得られるかという問題もある。しかしだからこそこれでうまくいけばかなり大きな成功例としてアピールしていけるといこともまた事実である。

参考

コトバンク 帰還困難区域

<https://kotobank.jp/word/帰還困難区域-190433#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89>

コトバンク 居住制限区域

<https://kotobank.jp/word/居住制限区域-677467#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89>

コトバンク 避難指示解除準備区域

<https://kotobank.jp/word/避難指示解除準備区域-679689#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89>

福島県 ふくしま復興ステーション 避難指示地域の状況

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/list271-840.html>

福島民友ニュース「川内村は6割帰還 双葉郡8町村避難状況、見通し立たず」

2015/03/02

<http://www.minyu-net.com/osusume/daisinsai/serial/150302-1/news3.html>

福島県 ふくしま復興ステーション 「平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報

(第1439報)」2015/05/27

http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/138009_280849_misc.xls

総務省統計局 成田聡「被災3県（岩手県、宮城県及び福島県）の沿岸地域の状況

－平成22年国勢調査人口等基本集計結果及び小地域概数集計結果から－」統計 Today

No.41

<http://www.stat.go.jp/info/today/041.htm>

復興庁「平成25年度 原子力被災自治体における住民意向調査結果」平成26年6月

http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/ikoucyousa/20140613_2

[5zentaihokokusyo.pdf](#)